

拠点形成研究交流報告：神戸大学 食の安全・安心科学研究センター (国内協力機関) 大澤 朗 教授の大学院講義、 セミナーと共同研究に関する学術交流実施

本事業の国内協力機関の一つである神戸大学 食の安全・安心科学研究センターより、大澤 朗 教授が来学(12月2～4日)し、宿主の健康維持・増進に関わる腸内細菌に関する研究とその解析手法の開発について大学院特別講義(「草食動物にみる腸内細菌との共生」と「ヒト腸管モデルの開発と利用」)が行われました。さらに、本研究に関する詳細と共に、これまでの経験から、研究に対する姿勢や進め方を含めたセミナー(「CFAI拠点形成に捧げる四方山話 実効する機能性食品開発のために」)を行って頂きました。また、腸内細菌と免疫に関する共同研究(北澤CFAI副センター長との共同研究)の打合せを行い、今後の研究推進に関する有意義な討論を行うことができました。

大澤先生は、食品の腸内細菌を介する生理機能性を評価することが可能な「Kobe University Human Intestinal Model(KUHIM)」と命名されたヒト腸管モデルを開発しました。本評価系は、海外のモデルに比べ腸内環境の再現度が高いモデルとして注目され、食品の生理機能性に関する動物実験に代わる評価ツールとして大いに期待されています。

今回の大澤先生による講義とセミナーにより、大学院生や若手研究者が大いに刺激を受け、若手研究者育成の推進が大いに期待されます。また共同研究打合せを通して、今後の本事業における共同研究の益々の発展が大いに見込まれます。本講義およびセミナーは拠点形成事業の一環として行われました。大澤先生に改めて感謝申し上げます。

大澤先生による大学院特別講義の風景



大澤先生による拠点形成セミナー風景



セミナー後の集合写真

